

# 図書案内

2018年 3月号

担当 1-1 篠田 1-5 浦田 1-5 平井 1-7 吉川



3年生の先輩方、ご卒業おめでとうございます。お別れするのは寂しいですが、新天地へと羽ばたくことで次なる出会いが待っていることと思います。1・2年生も同様に、1年間過ごしたホームの仲間と過ごす最後の月になりました。そこで今回は、**3月に読みたい『別れ』と『出会い』の本**を特集します。人生には数多くの「別れ」と「出会い」が訪れます。別れが辛いとき、うれしい出会いがあったとき、心を満たしてくれる1冊を選びました。図書館にて貸出しています。



## ライ麦畑でつかまえて J.D.サリンジャー／著

16歳の高校生・ホールデン・コールフィールドは成績不振で退学処分を受けるが、紆余曲折あり、学校や寮を自ら出て行くことに決めた。周囲や世の中に対して不平不満をぶちまけながらも、まだ希望を捨てたくない少年が、社会や大人たちと向き合い、傷を負いながらも痛切な叫び声を上げ——。読者の心を動かす言葉が詰まった作品。ティーンエイジャーのうちに読んでおきたい1冊。

**「失敬」僕はそう言ったけど、感謝の言葉やなんかは言わなかった。言わなくてよかったと思う。**

悩んだ時、心に効く本が知りたい……。そんな人におすすめするのが『文学効能辞典』(エラ・バーサド、スーダン・エルダキン／著)。心身の不調や悩み、年齢別に、おすすめの小説202冊を紹介。「頭がよすぎるとき」「思いやりに欠けるとき」「花粉症のとき」「恋わずらいのとき」「心が折れてしまったとき」「思春期で悩んでいるとき」……。様々な症例(?)に沿った薬となる本が掲載されています。あなたの心を癒やしてくれる1冊に巡り会えるかも!?



## フォルトゥナの瞳 百田尚樹／著

自動車整備工場で働く木山慎一郎は、ある日から奇妙なものを見るようになった。死が近づいている者が彼の目には透明になって見えるのだ。幼いころ家族を失っている彼は、自分の目を使い、透明な人間たちを死の運命から助けようとする。しかし、その行為は彼の身に代償をもたらすものだった……。

**「俺は未来が見えたことで、その未来を変えた。その結果、全然関係のない女が死んだ、これって、神の領域の行為じゃないか」**

## 豆知識

### 恋愛関係における別れに関する研究

高松大学が行った「恋愛関係における別れに関する研究」によると、恋愛関係における別れは3月に多く、男性から女性に別れを切り出すことが多い。また、別れ話をする時間帯は、自分から別れを切り出す場合にも、別れを切り出される場合にも21時～23時が多い。両方がなんとなく別れを切り出す場合、別れ話をする時間帯は多少早くなり、19時前後が多い。別れる理由について、全体では価値観が合わなかったという理由を挙げる人が多かったが、男性は「他に好きな人ができた」という理由で、女性は「相手のことが嫌いになった」という理由で別れを切り出していた。切り出された理由はこれと逆の傾向がみられた——との研究結果が報告されています。興味のある人はHPをチェック!

【出典】[http://www.takamatsu-u.ac.jp/library/06\\_gakunaisyupan/kiyo/no41/41\\_087-105\\_makino.pdf](http://www.takamatsu-u.ac.jp/library/06_gakunaisyupan/kiyo/no41/41_087-105_makino.pdf)



## ツナグ 辻村深月／著

一生に一度だけ、死者との再会を叶えてくれる「使者」。それぞれの想いを抱え死者との再会を依頼した4人の生者と、使者の能力を継承する少年の物語。生者を待ち続ける死者、死者にとらわれている生者、彼らの想いに触れる少年の想い。生と死、人生と向き合うことのできる作品です。

**死者は、残された生者のためにいるのだ。**



## よるのばけもの 住野よる／著

「僕」は1人の中学生。「僕」には秘密があって、夜になると黒く大きなばけものになってしまう。カメラにも映らないばけもの「僕」は夜に学校へ行った。そこで、クラスでいじめを受けている矢野さんと出会った。学校で夜休みしている矢野さんと、ばけもの「僕」が出会うことで「僕」は2週間で大きく変わっていく。最後に「僕」は誰と出会ったのだろうか——

**「やっと、会え、たね」**